

2022年度①

民 法

(全 2 ページ)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入ください。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りください。

民法①

I 下記についてそれぞれ80字以内で説明しなさい。(各10点)

- (1) 形成権
- (2) 共同保証

II 次の問題のうち、1問を選択して解答しなさい。(100点)

[1] 次の事実をふまえた上で、下記の問題に答えなさい。

(事実)

- 1 資産家のAは多数の土地を所有していたが、そのうち自己名義の甲土地(更地であるが、一部に花壇が作られている)をBに2021年4月1日に2000万円で売却し登記を移転した。
- 2 Bが甲土地に建物を建てるために2021年8月1日に現地を検分し、甲土地上の花壇を除去しようとしたところ、Cが現れて、甲土地はCの物であると主張した。
- 3 CはAから2011年4月30日に甲土地を買い取り、引渡しを受け、花壇を作って草花の世話をしてきたが、登記の移転がないままに過ぎてしまったという。

(問1)

2021年8月20日に無料法律相談を訪れたBは上記の事実を説明して、「BはCに花壇の撤去を求めたいのですが、法的には可能ですか。」とあなたに尋ねました。あなたはCから予想される反論をふまえてどう答えますか。根拠条文を示して回答しなさい。(40点)

(問2)

事実3と異なり、CがAから甲土地を買い取り、引渡しを受けたのは2010年4月30日であった。BはCが長年にわたり甲土地に花壇を作り手入れをしているのを知りながら、Cに登記がないことをいいことに、事実1とは異なりAから甲土地を100万円で購入し登記をしたらしい。Bから花壇の撤去を請求されたCが無料法律相談で

あなたに「CはBからの花壇の撤去に応じなければならぬのでしょうか」と尋ねました(2021年8月20日)。あなたはBから予想される反論をふまえてどう答えますか。根拠条文を示して回答しなさい。(60点)

〔2〕 次の事例につき、下記の問題に答えなさい。各問題は独立した問題である。

- 1 Xは、Yが資材やトラックを置くことを目的として、1年間、自らの所有する甲土地を年間地代10万円でYに賃貸し、Yからの地代の支払と引換えに甲をYに引き渡した。
- 2 Yは、Xに断りなく、甲に建物乙を建て、その保存登記を備えた。
- 3 Yは、乙をZに売却し、代金の支払と引換えに乙をZに引き渡し、移転登記も行った。

(問1)

2の時点で乙の建築に気付いたXは、賃貸借契約に関して、Yに対してどのような主張をすることができるか。(30点)

(問2)

2の時点でXが乙の建築に気付かないうちに3の事実が生じた場合、甲の賃貸借契約関係はどうなるか。(40点)

(問3)

問2の場合において、Xは、だれに対して甲の所有権に基づく乙建物収去と甲の明渡しを請求できるか。(30点)